

平成 20 年度第 1 回特別見学会実施報告

実施日：平成 20 年（2008 年）11 月 15 日（土）

特別見学会実施の経緯と特徴

石油技術協会のアウトリーチ活動のひとつとして、これまで春季講演会後の金曜日に実施してきた見学会とは別に、平成 20 年度より新たに特別見学会が企画・実施されることになりました。「百聞は一見にしかず」という立場から、石油や天然ガスの開発（探鉱・掘削・生産など）に対する理解促進・広報を、現場見学を通して実施することになったものです。そして、その第 1 回目の特別見学会「房総における天然ガスの生産施設とそれを産出する地層（上総層群）の見学会」が、平成 20 年 11 月 15 日（土）に実施されました。第 1 回特別見学会の特徴は、資源系および地質系の学科、研究室に所属する大学の学生（学部生、院生）を主な対象に、彼らが参加しやすい土曜日に実施したことにあります。もうひとつの特徴は、土曜日実施の場合は、生産施設を所有・管理する会社側が基本的に休業体制にあり、こうした中での施設の見学に対して積極的な理解と協力を求めるために、関係する企業の業界団体である京葉天然ガス協議会に協賛として加わっていただいたことです。

当日の参加者

当日応募して参加した人は、学生（学部生、院生、ポスドクなど）が 24 名（東京大学 16 名、早稲田大学 5 名、筑波大学 2 名、千葉大学 1 名）、大学教員が 2 名、一般の人（保険会社）が 2 名の合計 28 名の方でした。この他に、主催者側（案内者、事務局、補助要員など）が 8 名で、併せて 36 名の方がバスに乗車して移動しました。また、現地での説明や機材運搬などのために、現地で別動車とともに参加された方が 2 名おられます。なお、体調不良の関係で当日参加できなくなった学生さんが 3 名おられました。

当日の実施内容（概要）

当日の実施行程およびスケジュールは、次のようなものでした。

9:10 JR 蘇我駅東口千葉銀行前を出発しました。バスのなかでは、まず千葉県の水溶性天然ガス・ヨウ素鉱業に関するビデオ 2 本を鑑賞しました。その後、案内者の徳橋・岩本が、配布テキストにしたがって、その日の行程や見学対象の概要を説明しました。また、Stop 1 の関東天然瓦斯開発㈱の七井土プラント見学の際の注意事項も事前に説明しました。

10:20 Stop 1 の関東天然瓦斯開発㈱七井戸プラントに到着しました。そして 3 班に分かれて、生産井、セパレータ（分離槽）、沈砂槽、コンプレッサー、還元井などを見学しました。説明は、別働隊で参加された関東天然瓦斯開発㈱の樋口朋之氏と古川健史氏、それに案内者でもある同社の岩本の 3 名が担当されました。一通り見学が終わったところで、記念の集合写真を撮影しました（図 1）。11:00 頃に、Stop 1 発を出発しました。

- 11:20 Stop 2 の瑞沢川西門橋（みずさわがわ さいかどばし）に到着しました。ここでは、瑞沢川の表面に天然ガスの自然湧出によって起きる活発な発泡現象を観察しました（図 2）。11:30 頃にここを出発しました。
- 11:35 Stop 2 のすぐ近くにある道の駅「つどいの郷むつざわ」に到着しました。ここでは、トイレ休憩や必要な買い物を補充して、11:50 頃に出発しました。
- 12:10 Stop 3A のいすみ市ふれあいセンター（いすみ市役所夷隅庁舎の隣）に到着しました。ここで昼食の後、財資源環境観測解析センター（ERSDAC）から補助要員として参加された安藤五郎氏によって、同センターが発行した房総半島の図面についての紹介があり、その後、関東天然瓦斯開発㈱の樋口朋之氏より、「千葉の天然ガスとヨード」というテーマで、パワーポイントを使ってのレクチャーが行われました（図 3）。そして 13:10 頃にここを出発しました。
- 13:15 Stop 3A の近くにある Stop 3B のいすみ文化とスポーツの森に到着しました。このスポーツの森は高台（台地）にあります。そこに上っていくためにらせん状にくりぬかれた道沿いで、上総層群大田代層の地層（泥岩、タービダイト砂岩、火山灰層、スランプ層、断層）を観察しました。ここでは特に断層の観察に重点をおいて、断層による上盤側、下盤側の間はずれの見積り法や正断層と逆断層の区別の仕方について、参加された学生さんにも説明を試みてもらいながら、説明を行いました（図 4）。そして 13:50 頃にここを出発しました。
- 14:30 Stop 4 の養老溪谷温泉郷に到着しました。ここでは、蛇行する養老川に沿った遊歩道（中瀬遊歩道）沿いで、2 班に別れて梅ヶ瀬層と大田代層のタービダイト互層の岩相（砂勝ち互層、泥勝ち互層、スランプ堆積物など）を観察しました（図 5）。そして 15:30 頃にここを出発しました。
- <当初、このあと大きく西回りをして、君津市市宿で、大規模砂利採取場でみられる市宿層（まとまった浅海性の大型斜交層理砂層）をバスの中から見学して帰る予定でした。しかし、Stop 4 終了時に 1 時間あまり予定時間から遅れていて暗くなりかけていましたので、この計画を断念し、Stop 4 からまっすぐ JR 蘇我駅に向けて北進しました。>
- 17:40 JR 蘇我駅に到着し解散しました。

特別見学会実施後の対応

今回の特別見学会は第 1 回目ということもあり、11 月 17 日(月) に、全参加者に事務局からメール経由でかなり詳細なアンケートを送付し、その集計を事務局で行いました。その集計結果については、12 月 9 日の幹事会、12 月 16 日の理事会において資料として配布しました。また、参加された先生と所属の異なる何人かの学生に感想文の執筆も依頼しました。これらのアンケートの集計結果(一部)と感想文を、資料として最後に添付します。

全体的な実施総括

見学会当日朝の天気予報では午後雨が降る可能性もありましたが、当日は曇りで、午後も

雨にはならず、また特に寒くもなく、まずまずの天候であったといえます。日が短い時期である上に、各 **Stop** 地点での観察などをゆっくり行った結果、最後の行程は省略することになりましたが、事故もなく無事終了しました。参加者には、できるだけ視覚的なテキストを準備して配布し、あとで見学した内容が視覚的に復習でき、理解を深められるように考慮しました。また、石油技術協会事務局では、テキストをファイルにくださるなど、参加者がより利用しやすい形に進化しました。アンケートで多くの学生が指摘しましたように、生産プラント・自然湧出現場・断層・貯留層（タービダイト砂層）などを現場でみることによる感動、理解の促進は予想以上に大きく、百聞は一見にしかずという観点から企画した特別見学会の当初の目的は、十分成果をあげたと思われます。なお、アンケートで指摘されているようないくつかの技術的な問題点（メガホンの使用など）については、今後、さらに改善していく必要があると思われました。また、今回は第1回目ということもあって実施時期を遅らせましたが、今後秋に実施する場合は、もう少し昼の時間が長い時期（たとえば10月頃）に行ったほうがよいであろうと思われました。

広報・周知に関する反省点

今回は、初めてということもあって、会告としては案内せずに、関東の大学の関係する先生方に **HP** をみてくださいという形で第1回特別見学会の実施を個別にメールでお知らせしました。しかし今後実施する場合は、会告としても実施概要を案内し、詳しくは **HP** をみてくださいと案内したほうが、全国的にお知らせするという意味からも、また関係者への周知をより効果的に行うという点からも好ましいと思われました。また、簡単なポスターなどを作製し、それを、たとえばメールの添付ファイルなどで大学の関係者などに送付して、受け取った側で適当な大きさにプリントして掲示してもらうようにすればなおいいと思われました（その場合も、詳細は **HP** を参照してくださいと書けば、あまり細かい点までポスターに記述する必要はないと思います）。

お礼

今回の特別見学会の実施にあたっては、石油技術協会内外の多くの方の協力を得ました。石油技術協会外では、協賛していただき京葉天然ガス協議会の関係者の皆様、特に、関東天然瓦斯開発㈱には、休日のプラントの見学と人員や車・器材などの便宜供与にご協力いただきました。石油技術協会事務局および事務局のある石鉱連のみなさまには、資料づくりを初めとする各種準備作業と当日の事務業務などで、また、探鉱技術委員会のみなさまには、当日の補助要員などご協力をいただきました。ご協力いただいた関係機関・関係者に厚くお礼を申し上げます。

徳橋秀一(産業技術総合研究所)・岩本広志(関東天然瓦斯開発㈱)



図1 Stop 1の関東天然瓦斯開発(株)七井土プラントにて A. 生産井の見学風景, B. セパレータ(分離槽)正面の沈砂槽の上での見学風景, C. 記念集合写真.



図2 Stop 2の瑞沢川西門橋にて A. 西門橋(さいかどばし)からの見学風景, B. 瑞沢川(みずさわがわ)表面の発泡現象.



図3 Stop 3A のいすみ市ふれあいセンターにて A. ERSDAC の房総半島の図面についての説明（講師は ERSDAC の安藤五郎氏），B. 千葉の天然ガスとヨードに関するレクチャー（講師は関東天然瓦斯開発(株)の樋口朋之氏）



図4 Stop 3B のいすみ市文化とスポーツの森にて A. 道路沿いみられる断層の説明風景（マイクで説明しているのは、関東天然瓦斯開発(株)の岩本広志氏），B. 道路沿いの断層が正断層か逆断層かその根拠を指名された参加者が説明。地層は、A, B とも上総層群の大田代層。

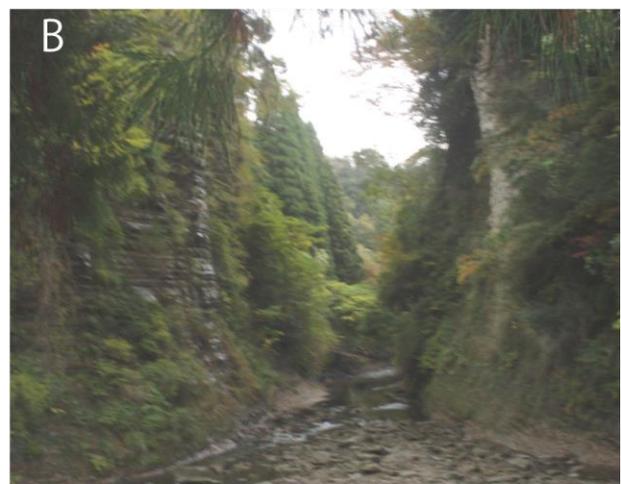


図5 Stop 4 の養老渓谷温泉郷（中瀬遊歩道）にて A. 上総層群梅ヶ瀬層最下部のタービダイ砂岩優勢砂岩泥岩互層（砂勝ち互層）を見ながら、飛び石伝いに養老川を横断，B. 弘文洞跡の両側の崖にみられる上総層群大田代層の泥岩優勢砂岩泥岩互層（泥勝ち互層）。手前が養老川本流。

資料

以下に、特別見学会実施後に行ったアンケートの集計結果（コメント回答部分を除いたもの）と感想文を資料として掲載します。ご協力いただいた方に厚くお礼を申し上げます。なお、感想文の執筆者の方の表記方法は、個人情報保護の観点から所属先までとし、お名前の部分は省いて男性もしくは女性と表現させていただきました。

資料1：第1回特別見学会参加者アンケート集計結果

アンケートの依頼人数：28名（学生：24名，教員：2名，一般：2名）

アンケートの回答者数：20名（学生：16名，教員：2名，一般：2名）

A. 集合時間（8時50分）について

- a. 早すぎる 2
- b. 特に問題ない 18
- c. 遅すぎる 0
- d. 補足コメント(何かあれば)：(略)

B. 集合場所（JR蘇我駅東口千葉銀行前）について

- a. 特に問題ない 20
- b. わかりにくかった 0
- c. 補足コメント(何かあれば)：(略)

C. 参加費（1000円）の徴収について

- a. 高い 1
- b. 特に問題ない 18
- c. 無料の方がよい 1
- d. 補足コメント(何かあれば)：(略)

D. Stop 1（関東天然瓦斯開発榎七井戸プラント）の見学について

1. これまでに天然ガスの生産施設をみたことがありますか。

- a. はじめて 11
- b. 2回目 7
- c. 3回以上 2

2. Stop 1の見学で、特に印象に残った点はなんですか。自由にお書きください。
(略)

E. Stop 2（瑞沢川西門橋）での天然ガス自然地表湧出ガスの見学について

1. これまでにこのような天然ガスの自然湧出現象をみたことがありますか。

- a. はじめて 16
- b. 2回目 2
- c. 3回以上 2

d. どのような印象をもちましたか。自由にお書きください。
(略)

F. Stop 3A（いすみ市ふれあいセンター）での、千葉県天然ガス、ヨウ素鉱業について

の概要説明（レクチャー）について

1. これまでにこのような話を聞いたことがありますか。
 - a. はじめて 13
 - b. 2回目 3
 - c. 3回以上 4
 - d. どのような印象をもちましたか. 自由にお書きください.
(略)

G. Stop 3B (いすみ文化とスポーツの森) の道沿いの大田代層 (特に断層) の見学について

1. これまでに実際の断層をみた経験がありますか。
 - a. はじめて 10
 - b. 2回目 2
 - c. 3回以上 8
 - d. どのような印象をもちましたか. 自由にお書きください.
(略)

H. Stop 4 (養老溪谷沿い) でのタービダイト砂岩層と泥岩の互層 (砂泥互層)(梅ヶ瀬層と大田代層) の見学について

1. これまでにタービダイト砂岩層をみたことがありますか。
 - a. はじめて 13
 - b. 2回目 3
 - c. 3回以上 4
 - d. どのような印象をもちましたか. 自由にお書きください.
(略)

I. 今回の特別見学会は、資源系・地質系の研究室の学生諸氏に、百聞は一見にしかずという観点から、天然ガスの生産現場や自然湧出現場、天然ガスを胚胎する地層を実際にみてもらおうという趣旨で、できるだけ参加しやすい土曜日に実施しました。

1. 今回の特別見学会に参加して、役に立った、よかったと思いますか。
 - a. 非常に役に立った(参加して非常によかった) 16
 - b. そこそこ役立った(参加してよかった) 4
 - c. 特に役に立つことはなかった(参加して損をした) 0
2. 特に印象深かったことや役に立ったことなどがありましたら、自由にお書きください。
(略)

J. 来年度以降の実施について

1. 来年度以降もこのような特別見学会をやったほうがいいと思いますか。
 - a. 是非やったほうがよい(是非やってほしい) 18
 - b. やったほうがよい(ないよりはあったほうがよい) 2
 - c. 特に必要ない(特に得るところがない) 0
2. 補足コメント(その理由など)がありましたら、自由にお書きください。

(略)

K. 今後このような見学会をやるような場合、見学対象ややり方について、何かご要望やご提案などありましたら、自由にお書きください。

(略)

L. 見学会をやる時期としては、どういった時期がいいと思いますか。

- a. 春 12
- b. 夏 4
- c. 秋 14
- d. 冬 6

e. その他（特に希望する、あるいは、避けてほしい具体的な時期などがある場合）：(略)

M. 実施する曜日について（重複回答有）

- a. 土曜日がよい 13
- b. 月曜日～金曜日がよい 2
- c. 日曜日がよい 5
- d. 特にこだわらない 7
- e. その理由：(略)

N. 最後に、上記以外の点で、今回の見学会の内容、実施方法、その他で気がついた点や感想などありましたら、自由にお書きください。

(略)

資料 2：参加者からの感想文

感想文 1

11月15日、石油技術協会第1回特別見学会に参加した。今回の見学会は、天然ガスが関東天然瓦斯開発株式会社の七井戸プラントで生産されている現場や、瑞沢川西門橋から自然湧出している様子を見た後、夷隅文化会館の道沿いの大田代層と養老溪谷沿いのタービダイト層を観察するという内容のものである。

見学会では、千葉県の天然ガスについての説明を聞いた後に、それが埋蔵されている地層を手で触れて観察することで、実感を伴いながら、天然ガスを埋蔵する地質構造や岩石粒子について理解することができ、有意義な経験をすることができた。また、移動の車中では、古くから千葉県で天然ガスの生産が行われていたことを知ることのできる歴史的に貴重なビデオを見せていただき、天然ガスが人々の生活に身近な産業として発展してきたものであることを感じた。

知識としての理解と現場での体験を通じて、天然ガスについて学ぶことのできた今回の見学会は、自身の研究を進める上でも役に立つ機会となった。また同様の機会があれば積極的に参加して、石油工学に関する知識を広く学んでいきたいと思う（早稲田大学 理工学部環境資源工学科 森田研究室 4年 男性）

感想文 2

第一回目となった特別見学会は、水溶性天然ガス生産施設と自然湧出ガス、及びその源で

ある上総層群のタービダイト層の見学が企画されており、どれも個人的に興味のある内容だったので迷うことなく参加を決めた。見学会は集合場所の蘇我駅からは終始、貸切バスでの移動だったが、フルカラーの見学案内書に加え、戦前のガス生産のビデオ上映などがあったため楽しく過ごすことができた。最初の見学地、水溶性ガス生産施設では、実際にかん水がパイプを通る音を聞いたり、かん水をなめてみたり、分離された砂泥に触れてみたりして、ガス生産の現場を体感できたのは貴重な経験になった。続いての自然湧出ガスは、橋の上からの見学だったが、川のあちこちから気泡が出てくる光景はなかなか興奮するものであった。昼食とレクチャーを挟み、午後は露頭の見学となったが、夷隅文化会館入口の道路は、両側が全面露頭となっており、綺麗なタービダイトの縞模様が見える様は壮観だった。次の養老溪谷では紅葉シーズンの週末とあって、観光客が数多く見受けられた。色とりどりの紅葉と白黒の互層を楽しみながら見て回ることが出来た。時間の都合上、市宿層の大型斜交層理が見学出来なかったのは残念だったが、内容につながりがあってバランスのとれた良い見学会だったと思う。(筑波大学大学院 生命環境科学研究科 地球科学専攻 本山研究室 男性)

感想文 3

2008年11月15日に、石油技術協会の特別見学会が房総半島で行われました。

千葉県房総半島には、南関東ガス田と呼ばれる日本最大規模の水溶性ガス田が分布しており、天然ガスの生産が盛んで、天然ガスのほかに世界的に産出地が限られているヨウ素の精製も行われています。今回の特別見学会では、天然ガスの生産施設や自然湧出現場、そして、水溶性天然ガスを胚胎する地層を見学しました。

見学地の露頭では、泥岩と砂岩の違い、砂岩中に見られる堆積構造、凝灰岩を用いた地層の対比や地層の変位量の求め方など説明を受けました。また、午後からは天然ガスとヨウ素の開発や利用に関する説明があり、統計的な資料に基づいて詳しく説明を受け、天然ガスの生産と地質に関して丁寧にわかりやすく説明を頂きました。

生産施設から天然ガスを胚胎する地層までを見学することで、天然ガスの生産と地質学的研究との関わりについて学ぶことができました。これらを通して天然ガスの生産に関わる地質学的視点や背景を知ることができ、房総半島の地質におおいに興味を持ちました。今回の見学会を主催された石油技術協会の方々に深く感謝いたします。(千葉大学大学院 理学研究科 地球科学専攻 成瀬研究室 M2 男性)

感想文 4

以前から本見学会を楽しみにしていました。というのも、私の研究対象であるメタンハイドレートが東部南海トラフではタービダイト砂層に存在しており、また、房総における水溶性天然ガスが一説ではハイドレート起源と言われているからです。始めに訪れた水溶性天然ガスの生産施設では、生産井から都市ガスの供給ラインに至る一連の設備を見学させて頂きました。現在の生産ペースで700年分に相当する天然ガス及びヨウ素が存在することに大変驚きました。環境・エネルギー問題が深刻化している現在、持続可能性は重要なキーワードですが、千葉県の天然ガス・ヨウ素鉱業は、まさに持続可能な開発の好例だと思います。その後、湧出ガス現場や露頭の見学を行いました。タービダイトからなる砂泥互層を見たのは今回が初めてでしたが、徳橋さんを始めとする講師の方々の懇切丁寧な説明のおかげで、

専門外の私にも実感を持って地層の成り立ちを理解することが出来ました。見学会の趣旨の通り、文献で知ると実物を見るのでは大きな違いです。これから進学してくる学生のためにも、是非この様な企画を継続して頂ければと思います。講師およびサポートして下さい皆様、貴重な体験をどうもありがとうございました。（東京大学大学院 工学系研究科システム創成学専攻 増田研究室 ポスドク 男性）

感想文 5

“まず対象をよく観ること”

今回の見学会は、まず「平野部で実際に湧き出る地下水と天然ガス」を観察（実際に触ったり舐めたり）し、その後「それらの地下水の帯水層を含む露頭」を直接観察するという、地圏環境を地下水を通じて地上から地下までイメージすることができる貴重なものであった。また、野外調査の経験が浅い参加者を想定して、ハンマーやねじり鎌の貸し出し、カラー図表中心の分かりやすい資料や「粒径識別カード」（←本物の砂付き・秀逸）の配布など、初心者でも抵抗なく参加できる素晴らしいものであった。それ以外にも感謝したい点はいくつも思い浮かぶが、他の記事と内容が被りそうなので、やや私見であるが見学会中にあらためて感じた野外調査の重要性を以下に述べようと思う。

自然地理学の研究における目的は、言うまでもなく自然現象のより深い理解であり、そのためにはまず対象とする自然をよく観察し、ありのままの姿を認識することが重要である。教科書や関連資料、最近では web など収集した情報は、最初に概要を把握する上では非常に便利で洗練されたものだが、当然それらの情報は作成者によって選別されたものであり、ある考えを理解する上では分かりやすいが、他の解釈を模索する可能性が著しく低下している。私は学生時代に地形学を専攻していたが、主に実験と数値モデルを手法としていたこともあり野外調査・観察の経験が少なく、実際の地形現象を正確にイメージできていない引け目を常に感じていた（実は今でも感じている）。野外調査のみが最高の研究手法だとは思わないが、どのような研究であれまず解明する対象物を正確に把握しなければ研究成果も的外れで一面的なものに陥る危険が高いため、現場を観ることは大切である。今後も、今回のように現地を観る機会があれば積極的に参加していくつもりである。「昔の地質学専攻の学生は年間 300 日フィールド調査をしていた」などという話を学生時代によく聞いた。さすがにそこまでの猛者は当時身近にいなかったが、やはりフィールド調査の経験が豊富な研究者は自然現象に対して謙虚であり、その発言には重みがあり威厳を感じる（東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻 徳永研究室 教員 男性）。

感想文 6

今回、天然ガスの生産施設や上総層群の露頭を、卒論研究の学生と共に見学させていただき、大変貴重な勉強をさせていただきました。

私は、工学系研究科に所属し、加速器やイオンビームの技術的な研究開発を行なう一方、加速器質量分析という極微量の同位体を検出する技術を用いた応用研究の推進にも取り組んでいます。最近、特に I-129（ヨウ素 129：質量数 129 のヨウ素同位体）を利用した地球環境科学の研究に力を入れています。I-129 は宇宙線による反応やウランの自発核分裂などで生成する、半減期およそ 1,570 万年の長半減期放射性同位体です。あるシナリオによれ

ば、地球表層環境中では、大気中で生成した I-129 は、安定ヨウ素 (I-127) と混合し、海洋の微生物などに取り込まれ、最終的には海底堆積物中に蓄積します。プレート運動にともなって移動し、日本列島のような沈み込み帯上の地層中に濃集します。このようなヨウ素は、堆積物中の微生物起源の炭素と挙動をともしることから、ヨウ素の動態と炭素の動態は密接な関係があると考えられます。房総において天然ガスとヨウ素が随伴して産出することからも両者の起源は近いものだと推定されます。

ヨウ素の同位体比 (I-129/I-127) は、外部から I-129 が供給されない条件では、放射性の I-129 のみが時々刻々減少するため、時間情報を持っています。そこで、ヨウ素同位体比を測定すると、ヨウ素やそれに随伴する炭素の起源に関する重要な情報が得られる可能性があります。このような興味から、われわれは最近房総半島で産出するカン水中のヨウ素同位体比を測定しています。測定結果は、大変興味深いものですが、これをきちんと解釈するためには、カン水を産出する地層についてよく知る必要があります。

われわれは、地学については専門外ですので、文献等だけではなかなか房総半島の地層の成り立ちを理解するのは困難です。そこで、一度露頭を見学したいとかねてから思っていました。そんな折、今回の見学会を知り、参加させていただいた次第です。やはり、実際の地層を前に、専門家の解説を聞くと違います。特に興味深かったのは、砂層と泥層の互層構造の形成プロセスです。100 万年以上も昔の海底で、一様な泥層の堆積と、間欠的に起きる擾乱による砂層の沈積が長期にわたって続いていた状況を想像すると何とも不思議な感覚にとらわれます。実際の地層を見ながら勉強することは、これから地下資源や地殻構造を勉強しようとしている若い人たちにとっては、何よりの経験になるのではないのでしょうか。

今回の見学会を通じてもう一つ考えさせられたのは、房総半島の特異性です。千葉県だけで全世界のおよそ 1/3 のヨウ素を産出しているという事実は、あらためて考えてみるととても不思議なことです。ヨウ素の濃集する条件が揃う場所は全世界に数多くあると思いますが、それが容易に取り出せる環境にあることが極めて特殊な条件なのではないかと思えます。川床から湧出するガスの泡や、天然ガス/ヨウ素の生産井を見ると、その思いを強くします。また、そのような大変特殊なフィールドが身近にあったことに改めて感銘を受ける次第です。

ある仮定を置くと、カン水中のヨウ素同位体比の測定結果を年代に換算するとおよそ 5,000 万年という値が出ます。今回見学した地層は、主に更新世のものですが、もっと古い安房層群や嶺岡層群なども見学してみたい気がします。

最後に、今回の見学会に参加させていただいたことに、さらに、これを実際に企画/運営していただいたスタッフの皆様に感謝いたします(東京大学大学院 工学系研究科原子力国際専攻 タンデム加速器研究施設 教員 男性)

感想文 7

今回の特別見学会は工学系の学生の方を対象に開催されたものですが、私は損害保険会社で石油・天然ガス開発に関わる仕事をしており、天然ガスの生産施設や天然ガスが湧出する現場を一度は見てみたいと思い、事務局の方をお願いをして特別に参加させていただきました。

率直に、「百聞は一見に如かず」とはこのことだと思いました。今回の見学会に参加して、

日頃から書類で目にしてきた用語がより具体的な形で理解が深まったと思います。特に、関東天然瓦斯開発株式会社様の七井土 PL において、水溶性天然ガスが泥水に混ざって抗井より汲み上げられ、セパレーターや沈砂槽などを経て、都市ガスが生産されるまでの各種工程を直に見学できたことは、損害保険というリスクを扱う仕事に携わっているものとして、大変有意義なものでした。また、仕事とは直接関わりがなくても、日本が世界 2 位の生産量を誇るヨードに関する説明会や、養老溪谷における大田代層や梅ヶ瀬層の中にあるタービダイト・砂岩の見学会は、視点や世界を広げてくれるものであり、目の前にある事象の奥深さと追究する大切さを感じる事が出来ました。

社会人にとって、今回のような、じっくり自分の目で見て肌で感じる機会は、しかもその分野の専門家の丁寧な解説を聞きながら、というのは非常に貴重なものです。今後このような機会が増えることを期待しております。そして参加して得たものを最大限実際の仕事で生かしていきたい、それが社会における役割だと思っています。ありがとうございました(一般: 株損保保険ジャパン 女性)。

(以上)